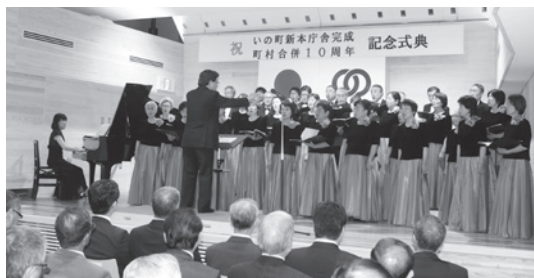


平井康三郎
記念ギャラリー
Hirai Kozaburo
Memorial
Gallery



いの町新本庁舎1Fにある平井康三郎記念ギャラリー。地元の木材や和紙がふんだんに使われた温もりある空間



「いの混声合唱団」(指揮:平井丈一朗)。いの町新本庁舎完成記念式典セレモニーにて



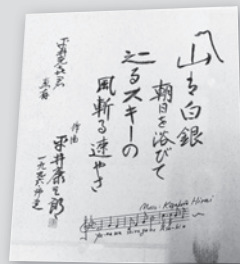
いのホールこけら落としとなった「平井丈一朗チェロ記念コンサート」(ピアノ:平井元喜)

平井康三郎の故郷に 記念ギャラリーがオープン

平井元喜(ピアニスト・作曲家)

このほど町村合併10周年を記念して高知県いの町(旧伊野町)に新本庁舎が完成し、同庁舎内に「いのホール」、平井康三郎記念ギャラリーが同時にオープンした。いの町は、20年以上にわたり生活をともした私の祖父で音楽の師匠でもある作曲家・平井康三郎(本名・保喜)が生まれ育った町。現在、高知市と愛媛県西条市に隣接し、2年連続水質日本一に輝いた清流・仁淀川の水の恵みを受け、千年に

わたり土佐和紙発祥の地として栄えてきた。また、いの町には美しい自然とともに、土蔵作りや格子のついた商家など、古い家並みが今なお残り、日本の原風景を思わせる風情がある。(写真は6、7ページに掲載) 2015年5月9日午後、塩田始町長らによるテープカットの後、多くの来賓が集まり、いのホールでいの町新本庁舎完成記念式典が執り行われ、後半の式典セレモニーでは私の父であるチェリスト・



記念ギャラリーに展示される平井康三郎(1910-2002)自筆の名曲「スキー」の譜面入り色紙で、筆者に宛てたもの

平井丈一朗指揮で、いの混声合唱団(1983年に平井康三郎が伊野町名誉町民第一号に顕彰された記念に結成)が、「合唱讃歌」、「平城山」、「ふるさと」など祖父の代表曲や、'06年に父が委嘱され作曲した新生「いの町歌」など7曲を熱唱した。

翌10日には、いのホールこけら落とし「平井丈一朗チェロ記念コンサート」仁淀ブルーと至高の調べ」が開催され、希望者多数のため一日2回公演となった。ピアノ伴奏はロンドンより一時帰国して私自身が務め、ヴィヴァルディ「ソナタ4番変ロ長調」やベートーヴェン「ソナタ第3番イ長調 作品69」などチェロの名曲に加え、平井康三郎作曲の「ゆりかご」(チェロ版は1948年作曲で歌曲にない短調の中間部や独自のコードをもつ)や祖父が当時高校生だった父のために書いた「くらさくら」によるパラフレーズ(1953)、平井丈一朗自作の「幻想曲和」(Wa)(2013)などを演奏した。聴衆は、南国土佐らしく終始熱狂的に迎えてくれた。

新設「平井康三郎記念ギャラリー」には、大正期・昭和初期の写真に始まり、今やヴィンテージともいえる珍しい写真の数々、自筆のスコアや「平城山」、「スキー」、「とんぼのめがね」のサイン入り色紙、また愛用のピアノ、燕尾服、眼鏡、筆記具、パナマハットに加え、土佐人として酒をこよなく愛した祖父の徳利と猪口など、私にとっても思い出深い遺品が飾られていて興味を尽きなかった。読者の皆様にも土佐の郷土料理、温泉などともぜひ一度いの町と平井康三郎記念ギャラリーに足を運んでいただきたい。